CASBEE名古屋 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE建築物（2014年版、名古屋市建築物環境配慮計画書作成支援用マニュアル2016）使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要

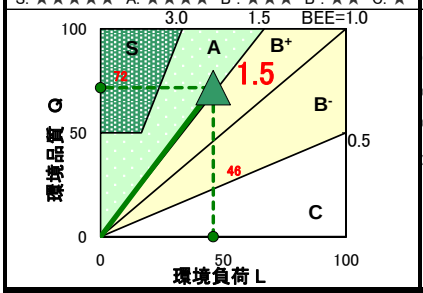
建物名称	(仮称)エスパシオ ナゴヤキャッスル	階数	地上11F、地下2F
建設地	名古屋市西区樋の口町301番、302番、303番	構造	SRC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	2,400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル,	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2024年 予定	評価の実施日	2024年12月10日
敷地面積	11,284 ㎡	作成者	
建築面積	7,356 ㎡	確認日	2024年12月11日
延床面積	43,662 ㎡	確認者	

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

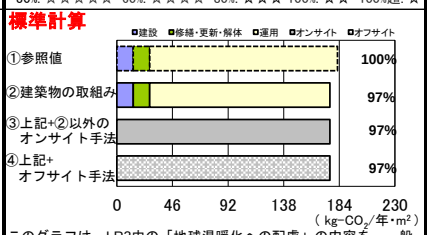
BEE =1.5 ★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★ B⁺: ★★★ B⁻: ★★ C: ★



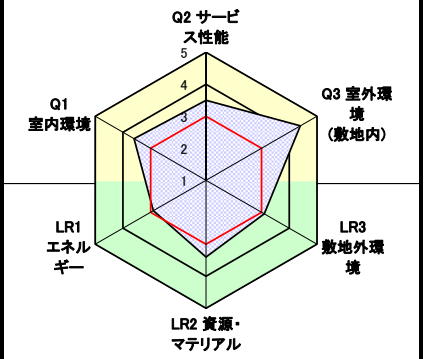
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



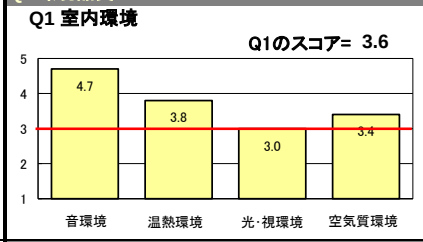
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

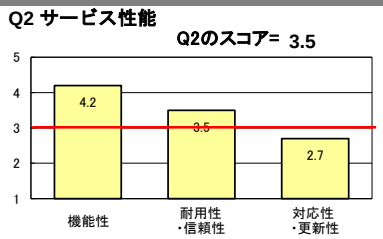
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

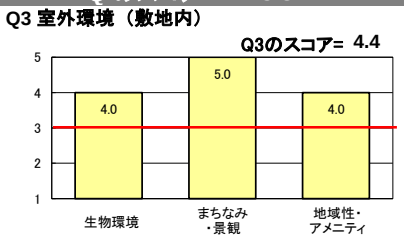


2-4 中項目の評価(バーチャート)

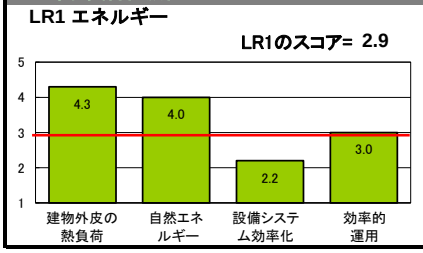
Q 環境品質　Q のスコア= 3.8

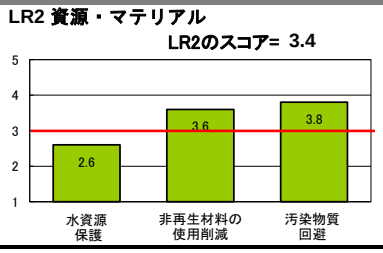


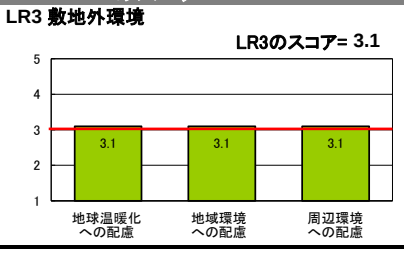




LR 環境負荷低減性　LR のスコア= 3.1







3 設計上の配慮事項

総合

外観は、名古屋城の低層部の石積み、高層部の白壁と緑青色屋根を基調とした色彩計画とし、尾張名古屋の武家文化表現として、入母屋の屋根を外観デザインの大きな特長とします。内装は、格天井や繊細で美麗な意匠を凝らした蒔絵、襖絵、金色、家具、アートを融合し、木を基調とした空間としています。
また、武家文化の特徴として、海外の文化を内装や庭園に積極的に取り込みます。

その他

Q1 室内環境

・低層部には宴会場やレストランなどのパブリックな用途を配置し、高層部分には客室などのプライベートな用途を配置します。低層と高層の両方からアクセスしやすい中層部にレストランを配置します。中部地区最大を誇る現ホテルの大宴会場の規模を継承し、名古屋城を臨み、多様な催しに対応できる宴会機能を確保します。

Q2 サービス性能

・設計時よりコンセプトをもとに内観パースを作成し室内イメージを確認しています。客室はモックアップ客室を作成し実際の空間イメージを確認しながら計画を進める予定です。客室数は108室で平均客室面積は65㎡です。

Q3 室外環境（敷地内）

・敷地境界線周囲は植栽を配置し正対している名古屋城天守閣、周辺のまちなみとの一体的な修景をつくる計画としています。庭園を建築計画と併せて計画し、特に4階の屋上庭園は名古屋城天守閣を借景とする唯一無二の眺望を与えます。

LR1 エネルギー

・井水利用、コジェネの採用、LED照明の採用

LR2 資源・マテリアル

・内装はLGSを採用。不活性ガス消火を採用

LR3 敷地外環境

・既存ホテルより日影、プライバシーが改善されるような配置計画とします。敷地境界には植栽を配して隣地へのプライバシーに配慮します。敷地内で計画的に廃棄物処理を行い、ごみの減量化を計画します。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE名古屋　評価結果

重点項目スコア・結果シート

(仮称)エスパシオ ナゴヤキャッスル

■使用評価マニュアル：　CASBEE−建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
■評価ソフト：　CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目			評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策					**3.0**
LR1	エネルギー		3.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮		3.1	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.05	
2. 自然共生					**3.8**
Q3.1	生物環境の保全と創出		4.0	0.09	
Q3.3.1 Q3.2	地域性への配慮、快適性の向上 まちなみ・景観への配慮	地域性のある材料の使用※1	有	0.009	
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.045	
3. 循環型社会					**3.4**
LR2.1	水資源保護		2.6	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減		3.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制　※2		3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策　評価点　＝ 3.0

2. 自然共生　評価点　＝ 3.8

3. 循環型社会　評価点　＝ 3.4

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$重点項目スコア＝\frac{(評価点×全体に対する重み)の総和}{全体に対する重みの総和}$$

※1　ここでは、Q3．3．1の評価する取組みのうち評価項目　Ⅰ　2）地域性のある材料の使用　又は、Q3．2において評価する取組みのうち評価項目　4）地域性のある素材による良好な景観形成　のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3．3．1の全体に対する重みに0．2を乗じたものとしている。

※2　ここでは、LR3．2．3のうち、LR3．2．3．3　交通負荷抑制　を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3．2．3の評価点とは異なるものである。